

## 看護援助学コース

### 第3次募集

アドミッションポリシーの専攻分野の基礎知識を有し、主体的に学習と研究に取り組む能力を有していることを確認するために「従業員（雇用者）の心の健康問題に対する労務管理者の支援」をテーマとした問題を作成した。

問1は、従業員（雇用者）の心の健康問題に対応する労務管理者の対応の困難さの特徴を客観的に読み取る力を確認するための問題である。

問2は、データを踏まえて、受験生の「従業員（雇用者）の心の健康問題」に対応する復職支援について思考させることで問題解決能力と論理的な思考力を確認した。

## 地域・在宅看護学コース

### 【出題の意図】

問題は、自治体で働く保健師に焦点を当て、「施策化」「コンピテンシー」についての知識と、知識を踏まえた思考力、説明力をみた。

#### 問1

自治体で働く保健師が地域活動を通じて行う施策化に関する知識と説明能力をはかる

#### 問2

自治体で働く保健師にとって、地域活動を行うために必要なコンピテンシーに関する知識と説明能力をはかる

#### 問3

問1と問2を踏まえて自らの考えを述べる能力をはかる

### 【回答例】

#### 問題

問1 自治体で働く保健師が地域活動を通じて行う施策化について説明しなさい。

保健師が行政で仕事をする場合、健康相談や家庭訪問などの個別の支援を通じて把握した健康問題を、時には地域全体の健康課題として捉える必要がある。この場合、健康問題解決のため、より多くの住民に保健サービスを提供できるように、保健事業という形にして行政に位置づける必要がある。これを施策化と呼ぶ。

政策は施政の方針を意味しており、施策とは、政策実現の手段であり、それをより具体的な活動としたものが事業である。保健師が、個人や家族、小集団への保健指導等の活動の中から予算を得て、計画を立案し、実施できるように事業を組み立てることを施策化と言い、保健師の果たす重要な役割である。

問2 自治体で働く保健師にとって、地域活動を行うために必要なコンピテンシーについて説明しなさい。

保健師に必要なコンピテンシーとは、保健師活動の領域で最大の成果を生む能力であり、単に知識や技術だけではなく姿勢や考え方、行動様式を含む能力のことである。

「対人保健サービスにおける支援者としての保健師業務」と「そこで生じている事象を客観的に評価する研究者としての保健師業務」の両方の質保証が地域の健康水準の向上に貢

献すると考え、それらの能力を自ら高め続ける姿勢と行動様式を持ち続けるコンピテンシーが重要である。

また、基本的な研究能力があり、常に「この支援方法は最も妥当か」「この事業は、どの程度母集団のニーズを充足しているのか」という問いをもって、質的データの収集と資料化、わかったことの文章化、および好評をしていく能力も重要である。

問3 ソーシャル・キャピタルの醸成を踏まえた認知症予防活動の事業化における自治体で働く保健師のコンピテンシーについて、あなたの考えを述べてください。

高齢化により認知症高齢者が増加する中、保健師にとって認知症予防は重要な業務である。認知症を予防するためには、出来るだけそれまでの暮らしの環境を変えることなく、家族や地域の方々の支えによって生活を送ることが大切である。しかし、症状が進行した場合は適切な医療を受け、進行をできるだけ遅らすことが必要である。よって、①地域の高齢者の生活の把握（高齢者うつ、引きこもり等）を関係機関との連携においてできる能力。②地域の人が高齢者のサロンを立ち上げていく支援（グループ支援）、発展への支援ができる能力。③認知症について学習し、予防のために何ができるかをサロンの代表者と対等に協議することができる能力。④事業に参加しながら高齢者の認知機能低下の進行を早期にキャッチし、家族と相談し医療機関につなげることが出来る能力。⑤事業化の必要性を上司に説明でき、事業計画書を作成できる能力。⑥活動の評価を研究的な視点を持ってまとめ、その資料化ができる能力。⑦自ら、保健師としての学習の場に出向き、自己研鑽を継続できる能力。以上を、ソーシャル・キャピタルの醸成を踏まえた認知症予防活動の事業化における自治体で働く保健師のコンピテンシーと考える。

●参考：実践知をエビデンスにするためのコンピテンシー

新版保健師業務要覧第4版 2022年度版